

SISTER
CITIES
NEWS

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship

Association of Ibaraki

vol.36 2001.5.12

茨木市国際親善城市協会

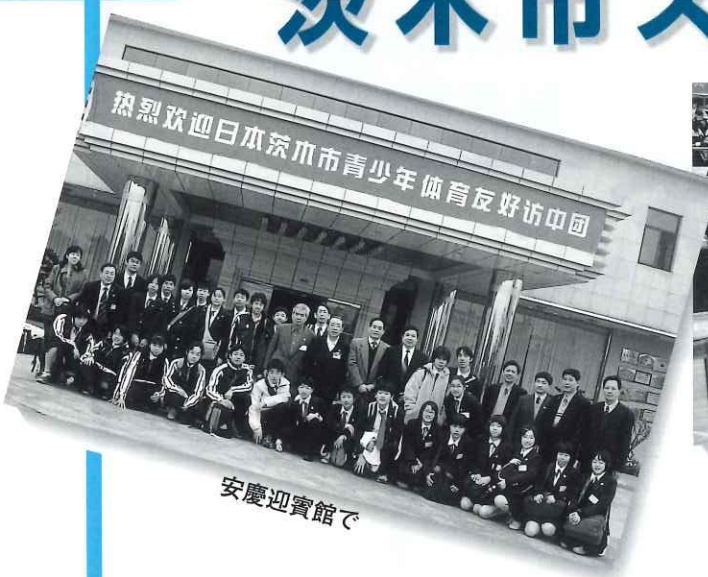


茨木市スポーツ親善訪中団

目次

- 茨木市スポーツ親善訪中団、熱烈歓迎!!茨木市民親善訪中団 2・3
- 内海町への市民訪問団に参加して、地域婦人団体協議会が内海町婦人会と交流、会員募集 4
- 熱戦!!内海中サッカークラブと交流試合、内海町宿泊施設利用者に補助 5
- テニス交流で深まる友情 5
- 2001年国際交流の集い 6
- 心温まるふれあい交流、2001年俳句コンテスト入賞作品決定 7
- 第17回英語スピーチ大会報告、2001年度行事予定、寄付 8

茨木市スポーツ親善訪中



安慶迎賓館で



白熱した試合



安慶の選手と楽

くやしかった親善試合

坂口 歩

大友康亘団長（茨木市体育協会副会長）をはじめ3人のコーチ、中学生26人（水泳選手15人、卓球選手11人）は、中国安慶市との友好親善を胸に、3月24日、旅立ちました。

翌朝、安慶市に近づく列車からは、一面に咲いている黄色い菜の花畑が見え、思わずその美しさに「ニーハオ安慶」と口ずさむほどでした。まず「菜の花」からの「熱烈歓迎」を受けました。

さて、親善試合ですが、大熱戦を繰り広げました。水泳では男子が団体優勝し、男女とも各種競泳において1位を含め多くの入賞者が出ました。卓球では女子が団体戦とシングルの優勝を果たし、男子も善戦しました。そして、応援の間には、安慶市の選手達と笑いながら写真を撮り合ったり、記念品を交換する中で、友好親善の目的を立派に果たしてくれた茨木市の選手達に、大きな拍手を送りたいと思います。

安慶市政府への表敬訪問や第一中学との交流を終え、帰路に南京大虐殺記念館を見学しました。献花・黙祷を行い、平和の大切さとこれからの自分達の生き方を改めて考えさせられました。

最後に、スポーツを通じて安慶市の人々を知り、多くの友人をつくった選手達が、この21世紀をリードしてくれることを願うとともに、「熱烈歓迎」の安慶市に感謝申し上げます。

（随行員 俣野哲夫）

私たちは3月24日から30日まで、中国に行ってきました。私が中国に行って心に残ったことは中国に友達ができただけです。この親善試合を通じ、たくさんの友達をつくり、たくさんの人と試合をし、とてもいい経験ができて、うれしかったです。これを機会に、自分自身が、どんどん強くなれたら、と思いました。

一つだけ、くやしかったことがあります。それは、親善試合の時のことです。団体戦で、次に私が勝たないといけない時、相手の子は手かげんしているみたいで、私に負けました。1セット私がとった時、その相手の子が手かげんしている事に気づきました。私は真剣にやっているのに、相手は鼻歌を歌っていて、しかも、それで私がその子に勝ったという事がいやでした。団体戦は勝ったけど、真剣にやってもらいたかったです。私はもっと強くなって、手かげんされなくても勝てるようになりたいと思いました。

この交流を通じて、日本とは違う自然、人々の環境、歴史といったさまざまな文化を学んだほか、いろいろな人と交流して、私も成長したかなと思いました。



安慶の選手と坂口さん（右）



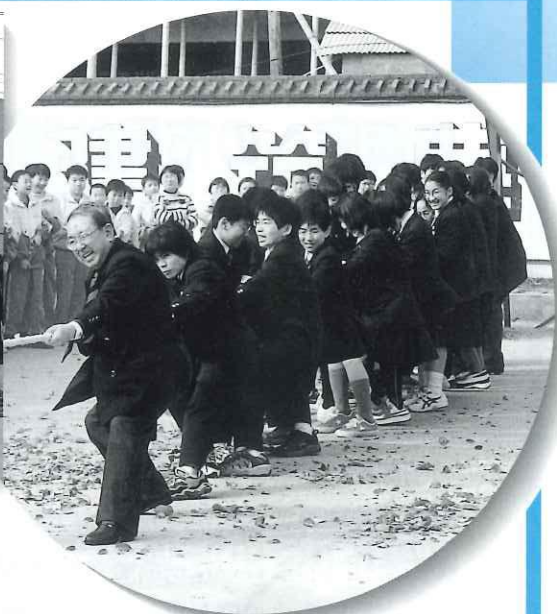
おいしい食事



緊張のスタート



振風塔の前で



心が通じ合った交流

塩田 竜二

今回の交流で僕は、本当にいろいろな事を学んだ。そして何よりも、すごく楽しかった。僕らが安慶の試合会場のグラウンドでバスケットをやっているのをみていると、彼らがきて、「いっしょにやろう」とさそわれた。初め僕らはちょっととまどっていたけど、いっしょにバスケットを思いきりやって、すごく楽しかった。それからすぐに仲が良くなり、言葉は、通じないけど、心が通じ合っていたと思う。だからその分、別れはつらかった。最後の日に、いっしょにご飯を食べた。顔を見合わせて、おいしいというしぐさをしながら、ご飯を食べた。そして、食べ終わって別れの時、僕はまだ出会って三日目ぐらいのベストフレンドと泣いた。

僕は、この七日間で、一番印象に残ったことは、今僕らが勉強しなければならないのは、いろいろな国からとらえた日本の在り方だと思う。それがわかれば、日本は、昔どんな事をして、世界に何をしてきたのかよく分かると思った。そしてそれを通じて日本は今後世界に何をすればいいのか、どこを反省していかなくてはいけないのかよくわかると思う。



市街地をバックに

熱烈歓迎!! 茨木市民親善訪中団

安慶市との友好都市締結15周年記念の市民親善訪中団の総勢20名は、10月18日、上海を経由して、空路安慶市に到着しました。空港から市内への道程は田園風景であり、水牛で田畑を耕す姿や稲刈り風景はとてものどかでした。

安慶市では、表敬訪問、安慶・茨木友好天象館、小学校などを見学、また、安慶市主催の歓送迎会では多くの関係者の温かいもてなしを受けるなど、各地で熱烈歓迎を受け、団員一同、たいへん感動いたしました。今回の訪問で、茨木市と安慶市との友好をより一層深めることができました。 (随行員 塩見 廣次)



黄梅劇学校で

内海町への市民訪問団に参加して

山本 弘夫

姉妹都市・小豆島の内海町への市民訪問団一行24名は、11月27日（月）、姫路港からフェリーで福田港に到着、オリーブ公園では内海町の坂下町長ら幹部の皆さんが「茨木市の皆さん ようこそ内海町へ」と書いた横断幕を揚げ出迎えていただき、歓迎会に出席しました。その後、そうめん工場や二十四の瞳映画村、壺井栄文学館等を見学



岬の分教場の前で記念撮影（後列中央が山本さん）



そうめん工場を見学

し、夜の懇談会では坂下町長、浜口町議会議長も出席され、茨木市とのつながりや内海町の話などの歓談にたいへん盛り上がりました。翌日の寒霞渓では、若林団長が「こんな素晴らしい紅葉の寒霞渓を見るのは初めて」と言われるほど、赤や黄に染まった木々の色彩に目を奪われ満喫できました。

私自身、去年は縁あって、ミネアポリス市、安慶市の訪問団にも参加でき、いろいろな方と出会えたことでそれぞれの国民性や習慣の違いなどを知ることができ、素晴らしい体験ができました。また、訪問団で一緒になった方と再会もでき、思い出話を楽しめたことが非常によかったです。

地域婦人団体協議会が内海町婦人会と交流

昨年11月25日（土）・26日（日）、茨木市地域婦人団体協議会一行27名が内海町を訪問しました。日本の三大渓谷美の1つに数えられる寒霞渓で、美しい紅葉の中を散策。小豆島オリーブ公園では、内海町婦人会と相互の活動状況について情報交換するなどの交流を図られました。

翌日は、歴史的な資料、民具を展示している小豆島民俗資料館、マルキン記念館、二十四の瞳映画村、当時のままの机や子供たちの作品がある岬の分教場を見学、そうめん工場ではそうめん作りを体験されました。



内海町婦人会会長を囲んで（二十四の瞳映画村で）

会員募集

本協会では、姉妹・友好都市交流をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、春と秋に発行する協会報や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉個人会員（一般）2,000円（学生）1,000円
団体・法人会員1口5,000円

〈申込先〉協会事務局（市役所南館8階 市民生活部
市民活動推進課内）

TEL. 0726-20-1604

熱戦!! 内海中サッカークラブと 交流試合

11月11日(土)・12日(日)の2日間、内海中学校サッカークラブ24名が来茨されました。

1日目は、万博記念競技場で行われたJリーグ、ガンバ大阪 VS 柏レイソルとのゲームを観戦しました。試合前には、憧れのJリーガーとグラウンドで記念写真を撮りました。

2日目は、市立北中学校をはじめとする3チームと交流試合を行い、内海中学校は、3戦2勝1引分けという結果でした。

彼らの中には、両市町の青少年交流事業で以前に一度会ったことのある生徒もあり、交流の輪が着実に広がっていることを強く感じました。



Jリーガーと記念撮影

内海町宿泊施設利用者に補助

姉妹都市内海町との交流促進を図るため、内海町の宿泊施設を利用する市民に対し、宿泊費用の一部を市が補助する制度があるのをご存じですか? 補助額(1泊)は、中学生以上3,000円、小学生1,500円で、1人につき年間2泊分まで補助されます。詳しくは、市民生活部市民活動推進課へお問い合わせください。(TEL. 0726-20-1604)

昨年11月6日～13日、ミネアポリス市から11名のテニス交流訪問団が来茨されました。

7日、市長への表敬訪問の後、市内を見学。夕方からの歓迎会では、素晴らしい歌声を披露されました。

8日からの3日間は茨木市民とのテニス交流、週末にはホームステイ家庭と京都見学に行くなど、日本での生活を満喫していただきました。

テニス交流で深まる友情



楽しいテニス交流



竜王山荘のテニスコートで



歓送会で歌の披露

2001年国際交流の集い



三曲協会の見事な演奏



楽しかった“ときうどん”



腹話術に拍手喝采

去る2月4日（日）、市役所南館10階大会議室において「2001年国際交流の集い」が160名もの参加者を集め、盛大に開催されました。

集いは3部構成で行われ、第1部は外国人による日本語スピーチ発表会が開催されました。当日のキャンセル等も相次ぎ、発表者は前年に比べ5人と少なめでしたが、逆にスピーチの時間は十分あり充実した発表会でした。

第2部は日本文化の紹介で、桂吉弥さんの落語と茨木三曲協会の演奏でした。桂さんのユーモアたっぷりの身振り手振りに会場はどっと沸き、また、三曲協会の奏でる音色に心が癒されました。飛び入りで、腹話術も披露されました。

第3部の交流会では、各スピーチ大会発表者を囲む形で行われ、終始和やかな雰囲気の中、時間の経つのも忘れる程、楽しい交流となりました。



楽しいおしゃべり



国際交流の集いに参加して

タイ国から来ました 三阪パニダー

私は、日本に来て丸10年目になりました。いろいろな場所へ行っていろいろな人と出会って良かったと思っています。やはり、良いところもあり、悪いところもあります。そういう話をする機会が今までありませんでした。

去年の5月頃に「姉妹都市活動室」の実用日本語学習会を知り、勉強してきました。そこで「国際交流の集い」の日本語スピーチ発表会を紹介してくれました。やっとお話する機会を見つけたと思いました。だって、いろいろな国の人は日本に来ていろいろな日本のことを知りたいと思っています。ここだったら少しでも日本に友達ができるし日本の習慣や文化など勉強できると思いました。すばらしいことです。それに参加することは、外国人との交流のためにも良いし、短い間日本に来ている人のためにも良いし、私みたいに日本人と結婚している人にとっても良いと思っています。なぜかという心を支えてくれるからです。安心して暮らせています。本当にありがたいところです。私のかってですけれど外国人の代表として、感謝を込めてありがとうございます。

心温まるふれあい交流

通訳ボランティア 和田多摩子

「JICA 大阪国際センター研修員とのふれあい交流」の3月17日(土)、私は通訳として研修員と市民との交流役がうまくできるか不安でした。最初の健康増進センターでは、トレーニングマシンを使いみんな大喜びでした。昼食では、お互いの国の話に花が咲き、その後の文化財資料館では、太古に遡っての農耕の文化や歴史に感動しました。最後は、大阪国際センターに戻ってのパーティーで、各グループごとにスタンツを発表。私達のグループは、スワヒリ語によるラブソングを披露しましたが、フィナーレは全員が会場一杯に大きな輪を作って踊りだし、心が温まりました。今日初めて会った人達が、こんなに仲良く笑い合えるなんて、まさしく、「ふれあい交流」だと感じました。



健康増進センターで血圧測定



ティーパーティーでの一コマ(右端が和田さん)



参加者全員で記念撮影

2001年俳句コンテスト入賞作品決定

今年も、ミネアポリス市から多くの俳句が送られてきました。今回のテーマは grass (草) です。高校生の部では、てんとう虫の世界に作者が入り込んで表現することに、日本の俳句的

なところが見られます。1、2行目のてんとう虫の行動から、3行目は一転しててんとう虫の中に入り込む描写は素晴らしいです。

各部門の優秀作品をご紹介します。

【幼稚園・小学生の部】

The leafy texture,
soft and brilliantly colored
lulling me to sleep
柔らかくきらめく色どりの
葉っぱの作る織物
私を寝かしつける

【中学生の部】

Green scribbles of grass
stains are always all over
my favorite pants
草の緑の落書き
お気に入りのパンツに
あちこちについているしみ

【高校生の部】

A lady bug lands
on a single tiny blade
her world is so green
てんとう虫が
細長い葉っぱに着地
そこは緑の世界

【成人の部】

Desperate deer digs
Buried blades beneath snow
Food found for today
腹を空かせた鹿が
雪に埋もれた葉を掘り起こす
今日の分だけの餌

(翻訳：吉村侑久代)

第17回 英語スピーチ大会報告



昨年11月3日(祝)に第17回英語スピーチ大会を開催し、中学生16人、高校生6人が出場しました。

中学生の部では、マザー・テレサの深い愛情についての暗唱文を発表し、会場からは「同じスピーチなのに話し手によって、全く違う感じがする」、「一生懸命に話しているのが伝わってきた」、「難しいのに、よく練習している」と感心の声。

高校生の部では自由なテーマで、家族で過ごす時間の重要性について、六甲山でのハプニング、タイへの家族旅行など興味深いスピーチが披露されました。

出場者の素晴らしい発音、表現力の豊かさ、堂々と発表する様子にレベルの高さを感じられる大会となりました。



出場者のみなさん

【中学生の部】

- 優勝 中村 恵梨子 (大阪薫英女学院中3年生)
 2位 佐藤 かな恵 (市立天王中3年生)
 3位 山村 てるみ (市立東中3年生)

【高校生の部】

- 優勝 服部 愛 (私立同志社女子校2年生)
 2位 村木 智湖 (大阪市立東高校2年生)
 3位 松浦 悠子 (大阪府立柴島高校2年生)

2001年度行事予定

新しい世紀、本協会の国際交流活動においても新たな展開を期待したいと思います。
 本年度の行事計画は以下のとおりです。

- | | | | |
|----|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|
| 5月 | 協会総会の開催、ミ市からの20周年記念品の設置、内海町のオーリーブマラソン | 10月 | 安慶市への市民訪中団派遣、内海町制50周年記念コンサート |
| 6月 | 協会ゴルフコンペ開催、ミネソタ州日本語村へのキャンプカウンセラー出発 | 11月 | 英語スピーチ大会開催、ミ市からの産業フェア視察団、内海町への市民訪問団派遣 |
| 7月 | ミ市への少年サッカーチーム、キャンプ交流訪問団、テニス交流訪問団の派遣、 | 2002年 | |
| 9月 | JICA研修員との「ふれあい交流」実施 | 1月 | 国際交流の集い開催 |
| | | 3月 | JICA研修員との「ふれあい交流」実施 |

寄附

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄附をいただきました。ご厚志に心からお礼申し上げます。(12月～4月、敬称略)
 <市へ> 社団法人 茨木カンツリー倶楽部(700万円)

編集・発行

茨木市国際親善都市協会

事務局:茨木市役所 市民生活部 市民活動推進課内
 〒567-8505
 茨木市駅前三丁目8番13号
 TEL.0726-20-1604 FAX.0726-22-7202